

【岐阜】2022年開設の頭痛外来、想定以上の反響-古川宗磨・大垣市民病院頭痛外来医師に聞く

◆Vol.1

「頭痛の医療連携紹介シート」を地域連携に活用

2024年8月30日（金）配信 m3.com地域版

大垣市民病院は、2022年4月に頭痛外来を開設した。想定以上の紹介数が集まり、診療枠の拡充を検討しているという。同病院の頭痛外来を1人で担当している古川宗磨医師に、その反響や診療体制、西濃地方の地域特性などについて聞いた。（2024年8月9日オンラインインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)

「もっと早く来ていれば」と涙を流す患者も

——2022年4月に開設した頭痛外来に想定以上の反響があったとのこと、詳しく教えてください。

開設から2年4カ月が経過し、新規患者の紹介数は合計で204人です。内訳は男性68人、女性136人、平均年齢は48.76歳。10～30代の比較的若い世代、そして50歳前後の閉経周辺期の女性の割合が特に多いのが特徴です。

外来では、「頭痛についてこんなに丁寧に聞いてもらったことがない」「頭痛の治療法について詳しく説明を受けたのは初めて」と話す患者さんもいて、症状に応じた適切な頭痛治療にアクセスできていない、いわゆる「頭痛難民」の方が多数存在することを実感しています。「たかが頭痛」と軽んじて放置されているケースも多いのですが、頭痛は生活の質や仕事、学業、レジャー活動などのパフォーマンスに大きく影響をおよぼします。患者さんの中には、診察中に感極まって涙する方もいて、長年つらい思いをされてきたことを肌で感じますし、医師として大きなやりがいもあります。



——頭痛外来のスタッフ体制、診療枠について教えてください。

紹介予約がメインで、新患については火曜日の11時台から3枠を設けてじっくり診察するようにしています。初診では問診、MRIなどの検査、頭痛に関する説明や啓発、生活指導などを行います。1人に1時間ほどをかけることもあります。再診については火曜日の13～16時で、1日に20人弱を診察しています。担当医師は私のみで、内科外来の看護師5、6人に他科と掛け持ちでお手伝いいただいています。

患者さんのうち7割が片頭痛で、このうちCGRP関連製剤を使った治療を行っているのは新規紹介患者の34.8%に当たる71人です。早い方では1カ月以内に頭痛の頻度や程度が減少し、生活への支障が軽快します。CGRP関連製剤の投与は1～2年要することもあり、診療枠はほぼ空きがない状況で、将来的には診療枠の拡充を目指しています。

西濃地方には頭痛専門医がいなかった

——岐阜県、特に西濃地方には頭痛専門医が少ないそうですが、地域特性について教えてください。

東海地方の中でも岐阜県は神経内科専門医や頭痛専門医が少ない地域です。西濃地方（大垣市、海津市、揖斐郡、養老郡、不破郡）には特に頭痛専門医が不足しています（日本頭痛学会認定頭痛専門医一覧参照）。この背景の一つに、この地域に頭痛の臨床研究をしている医師が少ないことが挙げられます。

さらに頭痛について専門研修を受ける機会に乏しく、頭痛を専門とする医師が生まれにくいことも地域特性としてあると感じます。私自身は後期研修中に頭痛医療の拠点の一つである富永病院（大阪市）で研修させていただいたことがあり、数々の頭痛患者さんが治療により回復していくさまを目の当たりにして目から鱗が落ちる思いでした。

頭痛専門医が乏しい一方で、西濃医療圏は人口35万人以上を抱えており、頭痛に悩む患者さんの行き場がない状況を感じていました。頭痛で悩む方々が適切な治療にアクセスできるようにしたいとの思いが強く、西濃医療圏の中核病院である大垣市民病院に頭痛外来を開設する運びとなりました。頭痛外来開設には病院長先生や神経内科部長先生、そして私が所属している名古屋大学脳神経内科の理解と後押しが必要不可欠でしたので、快くサポートして下さったことに心から感謝しています。これからも多くの頭痛患者さんを救うとともに、診療で得られたデータを活用してよりよい頭痛治療を追求していく所存です。

「頭痛の医療連携紹介シート」を作成し、地域連携に活用

——患者さんが頭痛の治療に適切にアクセスできる環境をつくるために、どのようなことが必要ですか。

頭痛患者さんはまずはかかりつけ医を受診することが多いと思います。そのため、かかりつけ医の先生方との地域連携を促進することが肝要です。また、コメディカルの方々にも頭痛に関する知識をより深めていただくことが挙げられます。

2023年より定期的に、製薬会社の協力をいただき、地域のクリニックの先生方を対象として「西濃の頭痛医療連携について考える～実際にご紹介頂いた症例のその後を添えて～」と題して勉強会を開催しています。実際にかかりつけ医さんから紹介いただいた症例が、その後どのような転帰をたどったのかを共有する内容です。また、2024年初旬には地域の薬剤師の方に向けて頭痛勉強会を開催し、予想を超える100人弱にご参加いただきました。今後もさまざまな形で頭痛に関するセミナーや勉強会を開催して理解を深めていただくとともに、地域連携の輪を強化していきたいと考えています。

また、当院では「頭痛の医療連携紹介シート」を作成し、大垣市医師会を通して市内のほぼ全てのクリニック・診療所に配布していただきました。このシートは2部構成になっていて、上部では頭痛専門医への紹介が望ましい症状のリストを掲載し、下部では「どのようなタイミングで逆紹介を希望するか」や「CGRP関連製剤の投与が可能か」を記載できるようになっています。

このシートを当院と共有いただくことで、かかりつけ医の先生方と患者さんの希望に沿った診断や治療をスムーズに行うことができます。ご紹介いただくかかりつけ医の先生方にはこのシートを活用していただき、シームレスで適切な頭痛治療につなげ

するための密な病診連携を引き続きお願いできれば幸いです。

頭痛の医療連携紹介シート

患者氏名 _____ 生年月日 _____ 年 月 日

以下にあてはまる方は専門医への紹介が望ましいです

- 「突然の」、「今までと違う」、「初発の」頭痛が出現した
- 片頭痛らしくなく、診断に難渋している
- 頭痛が1か月に15日以上ある
- 発作頓挫薬（痛み止め）を1か月に10日以上服用している、予防的に服用している
- 頭痛により、日常生活に支障が目立つ（家事や仕事、学校などの社会活動ができない）
- 現在の治療に対して効果が不十分である

＊片頭痛らしさ

- ・以下の頭痛発作を5回以上経験している（初発では診断つきません）
- ・頭痛の持続時間が4～72時間
- ・以下の2項目をみたす

1. 片側性 2. 拍動性 3. 中等度から重度の頭痛 4. 日常的な動作で頭痛が増悪する

- ・頭痛発作中に以下の1項目をみたす

1. 悪心または嘔吐 2. 光過敏及び音過敏

受診後のご希望（患者様のご希望に沿い、ご相談いたします）

- 紹介先で精査し、診断後（治療前）に逆紹介をご希望
- 紹介先で診断後に加療を開始し、軽快したのちに逆紹介をご希望
- 紹介先で継続的な加療をご希望
- 特にご希望なし

CGRP 関連製剤**を投与後に貴院で継続は可能でしょうか。

- 可能
- 不可能
- どちらかわからない

＊ ＊ Calcitonin gene-related peptide (CGRP) 抗体の ガルカネズマブ、フレマネズマブ、CGRP 受容体抗体のエレスマブ（2023年11月現在）
投与に際し、最速使用推進ガイドラインにより施設、医師要件がございます。
ご参照頂けますと幸いです。

文責 大垣市民病院神経内科 頭痛外来担当医 古川宗磨

頭痛の医療連携紹介シート

◆古川 宗磨(ふるかわ・そうま)氏

2013年三重大学医学部卒。トヨタ記念病院で初期臨床研修と神経内科後期研修プログラムを修了した。2018年トヨタ記念病院脳神経内科医員、2019年大垣市民病院神経内科医員を経て、2020年より名古屋大学大学院医学系研究科神経科学で末梢神経グループの一員として、現在まで臨床研究や治験に携わる。2022年より大垣市民病院神経内科に頭痛外来を開設し、頭痛の医療連携に尽力している。資格は日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会神経内科専門医、日本頭痛学会頭痛専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、日本脳卒中学会脳卒中専門医、脳卒中療養相談士。趣味は深夜ラジオの鑑賞。

【取材・文＝加藤 由起子(写真は病院提供)】

記事検索

